

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記③

国立市立国立第七小学校

平成27年7月3日 NO.39 (239)



花ちゃん 「あ！黒い虫だ。何だろうなあ。」

オー君 「お！これは、コオロギの仲間かもしれないぞ。」

花ちゃん 「モンタ博士！この黒い虫は何ですか。」

モンタ博士 「これはね、エンマコオロギの子供・幼虫だね。よく見てごらん。おなかのあたりに白い線があるだろう。これが特徴なんだよ。」

オー君 「モンタ博士！このエンマコオロギはどうしたのですか。」

モンタ博士 「これはね、1-2のMさんと、2-2のOさんが持って来てくれたのさ。」

花ちゃん 「どこで見つけたのかな。」

モンタ博士 「おうちのお庭で見つけたらしいよ。まだ大きさは1cmちょっとだけどよく見つけたね。何か虫はいないのかなと、自分から探したのがえらいね。感心だね。国立七小の近くは、まだまだ自然がいっぱいあるから、これからも生き物をいろいろ見つけてごらん。」

花ちゃん 「でも、私のおうちはマンションだから、お庭がないの。どうしよう。」

モンタ博士 「そうか・・・そういう人のために、今度休み時間などに校庭の裏庭に行って虫探しをしよう！そうだ！『虫探し教室』をやろう！」

オー君 「モンタ博士の『虫探し教室』！わーい！わーい！こりゃ楽しみだ。」

モンタ博士「モンタ博士は、子供達と遊ぶのが大好きなんだ。虫探しの他に、『草花遊び教室』、『草笛教室』、『どろ団子づくり教室』、『竹細工教室』、『お散歩教室』などもやっていこう。そのうちいつかやろう。」

花ちゃん 「わーい！わーい！うれしいなうれしいな。楽しみにしていますね。ところで、さっきのエンマコオロギですが、他にどんな特徴があるのですか。」

モンタ博士「そうだね。虫のことはオー君にお話ししてもらおうよ。」

オー君 「その前に、コオロギは子供の姿のまま大きくならない不完全変態の昆虫さ。それからよく見てごらん。写真のコオロギには羽がないだろう。だから子供つまり、幼虫ということさ。」

花ちゃん 「コオロギって、いい声で鳴くのよね。まだ鳴かないの。」

オー君 「大人になって、羽が生えてきたら、秋になったら、その羽をこすり合わせて音を出すのさ。スズムシなんかみんな同じだよ。」

花ちゃん 「コオロギって、とてもきれいでステキな鳴き声ですね。」

オー君 「ねえ、花ちゃん。鳴き声だって、いろいろとあるんだけど知っているかな。なわばりを主張して鳴く『ひとり鳴き』、メスを誘う『誘い鳴き』、それからオスと戦う『争い鳴き』もあるんだよ。」

花ちゃん 「へえー。そうなんだ。ところで、コオロギはいつ鳴くの。」

オー君 「朝と夕方が多いね。特に、求愛や交尾は明け方近く、石の下などに集まって行われるんだよ。」

モンタ博士「そのとおりだね。コオロギは飼うのも簡単だよ。いまから成虫になるまで育てて、いろいろと観察すると楽しいよ。モンタ博士のお勧め昆虫だね。」

コオロギのいろいろ

エンマコオロギは日本で見られるコオロギの中で最大。頭は球形で、顔には白色の盾状斑がある。コロコロと鳴く。**ミツガコオロギ**もごく普通にどこにでも見られる中型のコオロギ。雄の顔が三角に張り出していることからこの名前がついた。張り出し方はかなり大きく、上から見てもよくわかる。但しメスの顔は一般のコオロギと同じで丸みがある。畑の土に小さな穴を掘って、そこを隠れ場所にしている。鳴き声はリッ、リッ、リッと強く鳴く。**ツツレサセコオロギ**もあちこちで見えるコオロギ。鳴き声が「早く冬に着るものを縫ってしまいなさい。」と言っているかのように聞こえるために、「綴れさせ」と名前がついたと言われている。鳴き声はリーリーリーと長く鳴く。なお、万葉集にキリギリスと詠まれたのは、このツツレサセコオロギであるそうだ。